一九三四年十月東京ニ開催セラルル萬國赤十字會議ニ出席スル「ソ」側代表トシテ「ラコフスキー」以下合セテ五名任命セラレタリ

「ラコフスキー」ハ元駐英及駐佛大使タリシカ黨内訌ニ際シ左遷セラレ現在保健人民委員部ノ部長兼醫科大學長代理ノ職ニアリ（参照一五八）

一一五　エストニヤ外相訪ソ（プラウダ七―二九）

「エストニヤ」國「セリヤマ」外相ハ七月二十八日莫斯科ニ到着滞在三日ニシテ歸國セルカ同氏ハ一九二八―三三年ノ五ケ年在「ソ」公使タリシコトアリシモ「エストニヤ」國外相カ公式ニ「ソ」聯邦ヲ訪問シタルハ之ヲ以テ嚆矢トス右滞在中「リトヴィノフ」ト數次會見シ兩國間ノ一般問題ニ付會談シ又東歐「パクト」ニ關シ意見ノ交換行ハレタリ

八　月

國内事項

一一六　不正計量嚴罰（イズヴエスチヤ八―六）

七月二十五日附ヲ以テ「ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議ハ不正ナル度量衡及小賣値段ニ依ル販賣ヲ消費者ヨリノ盗奪且「ソヴィエト」國家ニ對スル欺瞞ナリトシテ之ヲ十年ノ自由刑ニ處スル旨ノ條項ヲ各共和國刑法中ニ追補スヘキコトヲ決定セリ

一一七　極東赤軍成立五週年（プラウダ八―六）

特別赤旗極東軍ハ一九三四年八月六日ヲ以テ成立五週年ヲ迎ヘタルカ同軍ハ一九二九年ノ「ソ」支紛爭當時極東地方ニ配備セラレタル全軍ヲ革命軍事會議命令ヲ以テ特別極東軍ノ名稱ノ下ニ改編ノ上常置セシメタルモノニシテ翌三〇年一月ニハ其ノ功績ニヨリ赤旗勳章授與セラレ爾來特別赤旗極東軍ト稱セラルルニ至レリ

今回ノ五週年ニ際シ政府及黨ヨリ祝辭アリ國防人民委員ヨリハ同軍ノ功績ヲ稱揚シ將來ヲ激勵シタル命令アリ之ニ對シ極東軍側ヨリハ將來ノ忠誠ヲ誓ヒ又「プラウダ」紙ハ嘗テ極東ニ於テ日本軍ト戰闘セシ當時ハ現在ノ如キ軍隊ヲ有セス「ソ」聯領ハ帝國主義者ノ蹂躪スル處トナリシモ今日ニ於テハ敵ハ一歩モ足ヲ「ソ」聯領ニ踏ミ入レルヲ許ササル信念ヲ有スルニ至レリト論セリ

一一八 ウエルフネウーヂンスク改稱（プラウダ八—一〇）

露西亞共和國中央執行委員會幹部會ハ七月二十七日附ヲ以テ現「ブリャート・モンゴール」自治共和國ノ「ウエルフネ・ウーヂンスク」（首府）ヲ「ウラン・ウデ」（蒙古語ニシテ赤「ウデ」河ノ意ナラン）ニ改稱シ又外蒙トノ國境ニ接スル「トロイツコサフスク」ヲ恰克圖（キャフタ）（地理的ニ兩市ハ最モ近接シ居レリ）ト改稱スルコトニ決定セリ

一一九 地方產業人民委員部設置（イズヴエスチヤ八—一一）

地方產業開發ノタメ「ソ」聯邦中央執行委員會ハ八月十日附決議ヲ以テ左ノ通リ地方產業人民委員部ヲ設置セリ

(1) 現在重工業、林業、輕工業、食料品工業ノ各人民委員部ノ管轄下ニアル地方產業ヲ諸企業ニ管理セシムル爲加盟並ニ自治共和國内ニ地方產業人民委員部ヲ、州及地方執行委員會内ニ地方產業管理局ヲ設置ス

(2) 加盟共和國地方產業人民委員部ハ次ノ諸項ヲ管掌ス

(イ) 地方產業ノ指導、調整、計畫、調査及各地方產業人民委員部直屬ノ企業、經濟機關、官衙ノ管理

(ロ) 新生產組織、新建設、地方產業再建ノ指導

(ハ) 所管產業ノ配給並ニ販賣、價格國策ノ施行等ノ指導

(ニ) 產業協同組合事業ノ一般的監視及助成

(ホ) 地方產業幹部員ノ養成組織

(3) 自治共和國人民委員會議及地方（州）執行委員會ハ次ノ諸項ヲ管掌スルモノトス

(イ) 地方產業ノ凡ユル生產經營並ニ財政的活動ト建設ノ直接指導及管理

(ロ) 地方產業ノ基本的流動資產ノ管理

(ハ) 地方產業人民委員部ノ指示ニ基ク地方產業（企業及ヒ「トラスト」）、工業關係ノ經濟機關）管理ノ秩序設定ト指導的幹部員ノ任命

(ニ) 諸企業ノ生產行程及原料配給資源ノ國家計畫ニ基ク最終的確認

(ホ) 「ソ」聯邦年次並ニ四半期間產業計畫中ニ各加盟共和國產業人民委員部別ニ課題、限度、材料資源ト共ニ地方產業ノ課題、限度、材料資源ヲ特ニ規定スヘシ

一二〇 極東地方ソヴィエト大會召集

「ソ」聯邦「ソヴィエト」大會及露西亞共和國「ソヴィエト」大會ハ一九三五年一月十五日ニ夫々召集セラルル旨發表セラレタルカ右ニ關聯シ極東地方執行委員會幹部會ハ第五回極東地方「ソヴィエト」大會竝ニ各州以下ノ各行政區域ノ「ソヴィエト」大會召集方八月十一日附決定ヲ以テ發表シタルカ同地方及各州「ソヴィエト」大會召集期日等ハ左ノ如シ

極東地方「ソヴィエト」大會ハ一九三四年十二月十五日之ヲ召集ス其ノ議題左ノ如シ

(イ) 極東地方執行委員會ノ報告

(ロ) 一九三五年ニ於ケル家畜業振興案

(ハ) 保健施設ノ狀態

(ニ) 選舉

一二一 商品フオンド及商業調整委員會廢止（イズヴエスチヤ八—二八）

「ソ」聯邦人民委員會議ハ聯邦國內商業人民委員部設置ニ伴ヒ勞働國防會議附屬商品「フオンド」及商業調整委員會ヲ廢止スルコトニ決定セリ

對外事項

一二二 ソヴィエト飛行機波蘭訪問（プラウダ八—二）

一九三三年ノ波蘭飛行隊訪「ソ」ニ對スル答禮トシテ赤軍司令官代理「メジエニコフ」ヲ代表トスル「ソヴィエト」飛行隊（三臺）ハ七月二十八日波蘭訪問ノ途ニ就キ八月一日歸還セリ

一二三 リスアニヤ外相訪ソ（プラウダ八—四）

「リスアニヤ」外相「ロゾライチス」ハ「リ」、「ソ」親善ノ爲八月一日莫斯科ヲ訪問シ要人ト會

談ノ上三日莫斯科出發歸國ノ途ニ就ケリ

一二四　ソヴィエト飛行隊ノ訪佛訪伊（プラウダ八―一七）

一九三三年行ハレタル佛國航空大臣「コット」及伊國航空相「バルボ」ノ「ソ」聯邦訪問ニ對スル答禮トシテ非軍用飛行隊長官「ウンシユリフト」赤軍飛行隊長官「フリピン」ヲ代表トスル飛行隊ハ佛國ヘ向ケ「ジユコフスキー」軍用航空軍大學校長「エイデマン」赤軍飛行隊長代理「トドルスキー」ヲ代表トスル飛行隊ハ伊國ヘ向ケ八月八日同時ニ莫斯科ヲ出發シ各地ニ於テ大歡待裡ニ一週間滯在シ前者ハ十七日後者ハ十六日夫々莫斯科ニ歸還セリ

一二五　北鐵讓渡交涉經緯發表

北鐵讓渡交涉ニ關シ「ソ」側ハ八月十八日ノ各新聞ニ本件經緯ヲ發表シ交涉停頓ノ責任ヲ日滿側ニ負ハシメント試ミタルヲ以テ八月二十二日日本外務省ヨリモ一切ヲ發表シ交涉經過ノ眞相ヲ明ニセリ

一二六　北鐵ソ側從業員檢擧ニ關スル日ソ間應酬

八月十三、四日北鐵東部線ニ於テ發生シタル列車爆破事件ニ關聯シ「ソ」側從業員十九名ノ檢擧ニ對シ「ユレネフ」大使ハ八月二十二日附廣田大臣宛書翰ヲ以テ本件發生カ日本側ノ支持スル所ニシテ北鐵交涉ノ牽制策ニ利用セントスルモノナリトテ抗議シ來レリ右ニ對シ廣田大臣ハ九月四日附ヲ以テ同大使ニ囘答ヲ發シ本件ハ滿洲國司法權ノ發動問題ニシテ直接日本ニ關係ナキコトヲ明ニスルト共ニ北鐵爆破事件ニ「ソ」聯邦人カ關與シ居ルトノ見方アルモ止ムヲ得サルヘキ旨ヲ高調シ又本件檢擧ハ北鐵交涉トハ何關係ナシト述ヘ「ソ」側抗議ヲ駁セリ尙「ソ」側抗議ハ八月二十四日ノ同國新聞ニ發表セラレ日本側囘答ハ九月五日日本新聞紙上ニ發表セラレタリ

九月

國內事項

一二七　ソヴィエト作家同盟大會開催（プラウダ九―二）

八月十七日ヨリ九月一日ニ至ル間莫斯科ニ於テ「ソヴィエト」作家同盟第一回大會開催セラレ「ゴーリキー」議長ニ選ハレ出席代表五百二十七名世界各國ヨリノ作家四十五名參列セリ大會ニ於テ文學全般ニ亙リ報告、討議行ハレ次テ「ソヴィエト」作家同盟規約ヲ可決シ委員及幹部選出セラレタリ

尙八月二十八日ノ大會ニ於テ日本人土方伯ハ日本ノ革命作家及藝術家ヲ代表シ世界革命ノ先進部隊タル作家大會ニ熱誠ナル祝意ヲ捧クト前提シ一場ノ演説ヲ爲シ一般ノ注意ヲ惹キタリ又三十日大會ハ日本及支那ノ革命作家ニ挨拶ヲ送リタリ

一二八　ソ聯邦職業組合改組（イズヴエスチヤ九―九）

九月五、六日ニ亙リ莫斯科ニ於テ開催セラレタル全聯邦職業組合中央評議會第四回總會ハ組合改組問題ヲ審議シタル上國民經濟ノ發達、勞働階級ノ成長、新企業ノ出現及產業全般ニ於ケル仕事ノ質的向上ニ對スル鬪爭ニ伴ヒ職業組合ハヨリ具體的且個別的ニ現實ニ卽シタル活動ヲ爲サザルヘカラス然ルニ一九三一年ノ分割後職業組合ハ再ヒ著シク膨張シ現在ニ於テハ百萬以上ノ組合員ヲ擁スルモノモ少ナカラス個々ノ組合員ノ要求ヲ完全ニ滿足セシメ各種勤勞者團體ノ特質ヲ考慮シ賃銀及其ノ他ノ問題ニ關シ充分ナル能力ヲ發揮スルヲ得ストナシ職業組合ノ分割ヲ現存ノ四七組合ヨリ一五四組合トナスコトヲ決定セリ而シテ特ニ我利權企業及漁業ト關係アリト思考セラルル組合ハ左ノ如シ

一、石炭勞働者組合ヨリ中央地方、東部地方（中央委員會所在地―「ノヴォシビルスク」）及「ドンバス」ノ三石炭勞働者組合ヲ組織ス

二、石油勞働者組合ヨリ高架索石油勞働組合、東部地方石油勞働者組合（中央委員會所在地―「ウフア」）及精油勞働者組合ノ三組合ヲ組織ス

三、漁業勞働者組合ヨリ極東（中央委員會所在地―浦潮）、北部地方及南部地方ノ三漁業勞働者組合ヲ組織ス

倘經濟機關及銀行勤務員組合、製紙勞働者組合、護謨勞働組合、泥炭勞働者組合及農業器械製造勞働者組合ノ五組合ハ現狀ノ儘存置セラルルコトトナレリ

一二九　食料品工業人民委員部組織（イズ九―一四）

食料品工業人民委員部內ニハ左ノ二十一ノ部門別中央管理局、政治局及學務局ヲ置キ部門別中央管理局ニハ部門別販賣事務所及對工業施設品及材料供給事務所ヲ設ケ又全「ソ」家畜及煙草買付合同設置セラルルノミナラス計畫經濟部、商業部等ヲ置キ且聯邦內各共和國、自治共和國、州及地方ニハ代表機關若ハ監督官ヲ配ス（參照一〇一）

1 肉　2 魚類　3 鳥類
4 砂糖　5 酒精、「ウオツトカ」　6 罐詰
7 製酪、獸脂、香水、「コスメチック」　8 牛乳　9 「マルガリン」
10 果實、野菜　11 鹽　12 菓子
13 「マカロニー」　14 植物性油製造、乾酪製造　15 煙草
16 澱粉糖蜜　17 麥酒釀造、麵麭種製造　18 冷藏
19 飼料　20 漁業取締、魚類養殖　21 基本的建設

一三〇　國內商業人民委員部組織（イズ九―一四）

內國商業人民委員部內ニハ左ノ十四中央局部ヲ置キ工業商品中央管理局及食料品中央管理局ニハ「ソ」聯邦內數區每ニ檢査權ヲ有スル局長代理ヲ配スルノミナラス更ニ同人民委員部內ニ全「ソ」果實野菜買付合同計畫經濟部、財務部其ノ他ノ諸部ヲ置ク（參照一〇一）

1 價段調整　2 商業網
3 「コルホーズ」商業及市場　4 商業規則及標準ノ各部
5 工業商品　6 食料品
7 製產品商店　8 工業商品百貨店
9 地方商業機關　10 食堂
11 料理店及喫茶店　12 療養所ニ對スル供給及療養地ニ於ケル商業
13 國營商業監督機關　14 幹部養成

一三一　ソ聯邦政府ノ決定、決議公表手續

「ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議ハ一九三三年十二月七日附決定ヲ以テ「ソ」聯邦政府ノ決定公表手續ヲ一九三四年九月十七日發行聯邦法令集第四五號ニ發表セリ

「ソ」聯邦中央執委員會及人民委員會議ハ「ソ」聯邦政府ノ法律及命令公布ノ手續ニ關スル千九百二十四年八月二十二日附「ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議決定ヲ變更シ左ノ通決定ス

一、「ソ」聯邦中央執行委員會、同幹部會、「ソ」聯邦人民委員會議、勞働國防會議及之ニ附屬スル諸委員會ノ決定竝ニ之等諸機關ノ決議ニ關スル資料及其ノ事務ニ關シテハ其ノ所管ニ從ヒ「ソ」聯邦中央執行委員會書記官及「ソ」聯邦人民委員會議總務部長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ定期及不定期ノ刊行物ニ發表スルコトヲ得ス

右ノ許可ハ「タス」通信局ニ依リテ報道セラルル一切ノ決定及資料ニ付テハ「タス」通信局ニ之ヲ與ヘ其ノ他ノ場合ニ於テハ當該機關ハ其ノ所管ニ從ヒ「ソ」聯邦中央執行委員會書記官又ハ「ソ」聯邦人民委員會議總務部長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

二、本決定ヲ犯シタルトキハ發表スヘカラサル事項ヲ報道シタルモノトシテ罰セラルヘシ

一九三三年十二月七日

一三二　林業人民委員部改組（イズヴェスチヤ九―二一）

「ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議ハ九月十九日附ヲ以テ「ソ」聯邦林業人民委員部及其ノ地方機關改組ニ關スル決定ヲ公布セリ同人民委員部改組ノ目的ハ(一)林業人民委員部中央機關及地方機關ト伐木、流筏作業地及製材工場等生産現場トノ連絡ヲ緊密ナラシムルコト(二)事務細分主義ノ結果生シタル指導分散ノ弊ヲ一掃シ單一管理制ヲ確立シテ主管事項ニ付責任者ヲシテ其ノ責ニ任セシムルコト及(三)勞働者ニ對スル供給組織ヲ改善シ林業ニ於ケル積弊タル勞力ノ不足及移動ヲ防止シ作業ノ機械化ヲ助成スルコトノ諸點ニアリ（參照三一）

改組ノ要點ヲ擧クレハ左ノ通

一、中央機關中伐木中央管理局以下八局課ヲ廢止ス

二、地方、州及自治共和國ニ林業人民委員部ノ代表ヲ置ク制度ヲ廢止ス

三、極東木材工業企業合同（「ダリレスプロム」）、樺太林業「トラスト」（「サハリンレス」）以下一筏流、木材化學工業、家具製造工業、物資供給、技術援助、木材販賣等ニ關スル企業二十四ヲ廢止ス

四、林業人民委員部ニ左記中央管理局（イ）乃至（リ）及採算經營ノ機關（ヌ）乃至（ヲ）ヲ置ク（中央管理局ニハ採算經營主義ニ依ル數課ヲ置ク）

（イ）「ウラル」、西伯利及「ゴーリキー」地方伐木中央管理局

（ロ）北部地方伐木中央管理局

（ハ）硬質樹及高價樹叢生地方伐木中央管理局

（ニ）極東地方林業中央管理局（「ハバロフスク」市所在）

（ホ）製材及木材加工工業中央管理局

（ヘ）輸出木材工場中央管理局

（ト）「パルプ」製紙業中央管理局

（チ）木材化學工業中央管理局

（リ）燐寸工業中央管理局

（ヌ）勞働者物資供給部

（ル）運　輸

（ヲ）勞　務

五、各「トラスト」ニ對シ一定量ヲ限リ地方民ニ木材ノ小賣販賣ヲ爲スコトヲ許可ス

一三三　ソヴィエト碎氷船ノ北洋横斷（イズヴェスチヤ九―一二）

「ソ」側碎氷船「リトケ」號ハ一九三二年ノ「シビリヤコフ」號、翌三三年ノ「チエリユースキン」號ニテ開拓セラレタル北氷洋航路ヲ是等二船トハ反對ノ浦潮—「ムルマンスク」ナル「コース」ヲ執リ更ニ一層精密ナル調査ヲ遂ケ以テ極北地方征服ノ實ヲ擧クヘキ使命ヲ帶ヒ六月二十八日浦潮出帆壯途ニ就キタルカ北氷洋ニ入ルヤ氷雪ト戰ヒ飛行機ニ依リ比較的容易ナル進路ヲ探求シツツ西行ヲ續ケ途中「サムイラ」島附近ニ於テハ冬營中ナリシ第一「レナ」探險隊船ノ救出、第二「レナ」探險隊船ノ救助、「カルスコエ」海ニ於テハ「イエニセイ」河岸諸港木材

積取船ノ東道、同河口附近ノ淺瀨ニ乘リ上ケタル木材積取英國船「マルクリン」號ノ救助其ノ他多數「ソ」側船舶ニ對スル碎氷ニ依ル進路打開等ノ作業ヲモ遂行シ浦潮出帆後三ケ月ニ滿タスシテ九月二十日無事「ムルマンスク」ニ入港セリ「ベーリング」海峽「アルハンゲリスク」ノ「コース」ヲ航行セル露國船ニ碎氷船「ワイガチ」號及「タイムイル」號ノ二船アリ右ハ何レモ一九一〇年ヨリ四年間前記「コース」開拓計畫ノ實現ヲ試ミ漸ク一四年ニ於テ成功シタルモ中途「タイムイルスキー」半島西岸附近ニ冬營スルノ巳ムナキニ至リ「アルハンゲリスク」ニ入港セルハ翌十五年ナリシヲ以テ一航海ニテ本航路ノ航行ニ成功セルハ「リトケ」號ヲ以テ嚆矢トスル趣ナリ

一三四 重工業關係者會議開催（イズヴエスチヤ九―二二）

九月二十日ヨリ二十二日迄莫斯科ニ於テ重工業關係者會議開催セラレ企業支配人及同代理二百二十名、技術主任及同代理九十二名、職場頭四十五名、黨組織者及黨委員會書記三十二名、工場委員會長三十四名、「トラスト」指導者百二十三名並ニ技師長及重工業人民委員部代表者二百六十餘名出席セリ

本會議ハ「ソ」聯邦中ノ最モ重要ナル會議ニシテ「スターリン」カ事業經營ニ關シ六個ノ原則ヲ宣示シタル一九三一年ノ工業關係者會議ニ相當スルモノナルカ本會議ノ主要ナル目的ハ本年度第四期ノ重工業生産計畫ヲ遂行シ以テ本年度全計畫ヲ超過遂行シ來春早々開カルヘキ第七回「ソヴィエト」大會ニ對シ重工業カ第二次五年計畫第三年度タル一九三五年ヲ迎フル準備ヲ完了セルコトヲ報告センカ爲從業員ヲ鼓舞スルニ在リタリ各有力者ハ其ノ演說ニ於テ（一）重工業ノ有スル莫大ナル剩餘力ノ動員（二）指導ノ改善（三）技術ノ向上（四）器械取扱振ノ改善及（五）從業員ノ生活程度ノ向上等ノ諸點ニ付强調スル所アリタリ

一三五 一九三四年度個人農ノ一時課税（イズヴエスチヤ九―二七）

「ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議ハ九月二十六日附ヲ以テ個人農ニ對スル一九三四年度一時税ヲ課スル旨決定セリ

一九三四年度單一農業税率ハ去ル五月二十一日附決定ヲ於テ制定セラレタル處今回ノ一時課税ノ理由ハ兩三年來個人農カ「コルホーズ」市場ノ積極的利用等ニ依リ莫大ナル所得ヲ擧ケタルハ他方前記新税率ニ依ル引上カ個人農ノ所得增加ニ比シ遙ニ低率ナリシ爲ナリト云フニアリ本

税法中特ニ注意スヘキハ富農ニ對スル税率ノ高率ナルハ勿論惡意ヲ以テ播種計畫及國家ヘノ穀物引渡計畫ヲ履行セサリシ者ニ對シテハ倍額トシ納税期ハ十一月十二月ノ二期ニ分タレアルモ富農ニ對シテハ十一月迄ニ全額ノ完納ヲ命シ居ル點ナリ右ハ明ニ個人農特ニ富農ニ對スル壓迫手段ヲ强メタルト共ニ穀物收穫計畫ノ强行手段ト觀ラル

一三六　ソヴィエト聯邦飛行機ノ長時間無着陸飛行（イズヴエスチヤ九―二九）

「ソ」聯邦功勞飛行士「グローモフ」（大正十四年本邦ヘ飛來セリ）ノ指揮シ飛行技師「フイリン」操縦士「スピリン」ノ搭乘セル飛行機「エル・デー」號ハ先般七十五時間ノ無着陸彎曲飛行ヲ爲シ其ノ行程一萬二千四百十一「キロ」ニ達シ世界的記録ヲ作レル趣ニテ「ソ」聯邦中央執行委員會ハ九月二十八日附決定ヲ以テ前記「グローモフ」ニ對シ「「ソヴィエト」聯邦勇士」ナル稱號ヲ與フルト共ニ同人及「フイリン」、「スピリン」ノ兩人ニ對シ何レモ「レーニン」勳章ヲ授ケタリ

本件ニ付テハ新聞紙ハ之ヲ特筆大書報道シタルモ飛行ノ月日、地點等ニ付テハ一切記事ノ表ハシ居ルモノ無シ

一三七　ソ聯邦一九三四年度作柄ト生活狀態

一九三四年六月頃「ソヴィエト」當局ハ勤務者ノ賃銀ヲ增額シ又配給「パン」ノ價格倍額値上ヲ行ヒタルカ右ハ南露、西比利、極東地方ニ於ケル本年度農作物不作ノ結果ナリト云ハルル處其ノ後各都市ニ於テハ又々「パン」購入者ノ長行列ヲ見ルニ至リ特ニ「オデッサ」方面ニ於テハ「パン」配給ハ勞働者及勤務者本人限リトシ家族ニハ「パン」切符ヲ供給セス同地在住ノ外國人ニシテ饑饉來ヲ豫想シ出國ヲ希望スル者續出ノ狀態ナリト云フ

本年ハ一般ニ天氣不順ノ爲收穫不良ニシテ就中「ウクライナ」ノ一部ニハ相當深刻ナル旱魃アリテ前年ノ半作トサヘ云ハルルモ「ヴオルガ」、「ウラル」、「カザクスタン」等ノ諸地方ノミハ稍平年作以上ノ如ク之ヲ全聯邦平均セハ大體平作タル五十億布度ヲ稍下ルヘシトノコトナリ

對外事項

一三八　土耳其及伊太利軍事委員訪ソ

「フアフレッチン・パシャ」將軍ヲ首班トスル十二名ノ土耳其委員ノ一行ハ八月二十七日又「フランチエスコ・グラツオリ」將軍ヲ首班トスル五名ノ伊太利軍事委員一行ハ九月一日相前後シ

テ莫斯科ヲ訪問セリ各一行ハ中央及地方ニ於テ盛大ナル歡迎ヲ受ケ殊ニ土耳其委員ハ歸途「キエフ」附近ニ於テ國防人民委員「ウオロシロフ」統監ノ下ニ行ハレタル「ウクライナ」赤軍ノ演習ヲ參觀シ又伊太利委員ハ同シク同人民委員統監ノ下ニ「ミンスク」附近ニ於テ行ハレタル白露赤軍ノ演習ヲ參觀シ前者ハ九月十二日「オデッサ」發後者ハ十一日「ミンスク」發夫々歸國ノ途ニ就ケリ

一三九 ソ聯邦勃牙利國間公使任命（イズヴエスチヤ九―一）

去ル七月二十三日「ソ」聯邦勃牙利國間ノ國交開始ニ伴ヒ今回左ノ通兩國ノ外交代表任命セラレタリ（參照一一三）

在勃牙利國「ソ」聯邦全權代表

「フョードル・フョードルウイチ・ラスコーリニコフ」（前在丁抹全權代表）

在「ソ」聯邦勃牙利國公使

「デミトリ・ミハリチエフ」博士

一四〇 ソ滿水路協定調印（イズヴエスチヤ九―五）

黑龍江、「アルグン」河、「ウスーリ」河、松花河及興凱湖ニ關スル「ソ」滿國際水路協定ハ九月四日黑河ニ於テ黑龍江船舶管理局長「メテリッツア」及堀内哈爾賓船舶局長ニ依リ調印セラレタリ

右ニ付「ソ」側當局ハ新聞紙上ニテ本件協定ハ國家的性質ヲ有セス專ラ技術的問題ヲ取扱ヘルモノナルカ協定調印ノ事實ハ多少ノ政治的意義ヲ有ス卽チ右ハ「ソ」側ノ善意ヲ示スト共ニ滿洲國境ニアル「ソ」官憲カ如何ニモ紛爭ヲ求メ且諸問題ノ解決ヲ避ケ居ルヤニ報道スル日滿新聞ノ誹謗ヲ事實ニ於テ再ヒ反駁スルモノナリ更ニ本件協定ハ日滿側カ勝手氣儘ノ方法ヲ執ラサル限リ事務的問題ニ就テハ常ニ事務的ニ話ヲ着クル可能性アルコトヲ示スモノナリト說明セリ

一四一 ソヴィエト艦隊波蘭訪問（イズヴエスチヤ九―一二）

九月三日「バルチック」艦隊司令長官「カーレル」ノ率ユル「ソヴィエト」軍艦三隻ハ波蘭「グドイニヤ」港ヲ訪問シ十日「クロンシュタット」ニ歸港セリ今回ノ波蘭訪問ハ一九三四年八月

波蘭艦隊ノ「レーニングラード」訪問ニ對スル答禮ナリ

一四二　ソ聯邦國際聯盟加入（イズヴエスチヤ九―一七）

九月十五日國際聯盟三十ケ國ハ「ソ」聯邦政府ニ對シ聯盟加入ノ勸告狀ヲ發シタルニ對シ政府ハ聯盟加入ノ申込狀ヲ聯盟總會議長ニ傳ヘ又聯盟理事會ハ前記往復文書ヲ審査シタル後「ソ」聯邦ノ聯盟加入カ總會ニ依リ承認セラルルト同時ニ同國ヲ常任理事國トスルコトヲ決議セリ

（一）「ソ」聯邦ニ對スル九月十五日附聯盟加入勸告狀（要領）

南阿、「アルバニア」、濠洲、墺、英、勃、加、智利、支那、西、「エストニア」、「エチオピア」、佛、希、「ハイチ」、匈、印度、「イラク」、伊、「レットニア」、「リスアニア」、墨、「ニュージーランド」、波斯、波蘭、羅、致惠古、土、「ウルガイ」、「ユーゴースラヴィア」ノ三十國ノ下記代表ハ聯盟ノ主要任務タル平和ヲ維持シ且之ヲ組織スルノ使命ハ世界ノ凡ユル國家ノ協力ヲ要求スルモノナルニ鑑ミ「ソ」聯邦ニ對シ聯盟ニ加入シ其ノ貴重ナル協力ヲ齎サンコトヲ勸請ス本勸告狀ハ之ヲ總會議長ニ通告セリ（以下代表ノ署名ヲ掲ク）

（二）總會議長ニ對スル「ソ」聯邦ノ聯盟加入申込狀（要領）

先ツ加入勸告狀ノ趣旨ヲ繰返シタル後「平和ノ組織及確立ヲ對外政策ノ主タル目的ト爲シ且平和ノ爲ニスル國際協力ニ力ヲ盡サザリシコト無キ「ソ」聯邦ハ右勸告狀カ聯盟國ノ壓倒的多數ヨリ來リ從テ聯盟ノ平和ニ對スル眞意並ニ是等ノ諸國カ「ソ」聯邦トノ協力ノ必要ナルヲ承認セルコトヲ表明スルモノナルニ顧ミ欣然右勸誘ニ應シ聯盟國トナリ聯盟ニ於テ自國ニ適應セル地位ヲ占メ規約第一條ニ基ク一切ノ國際義務ヲ遵守スルコトヲ約スヘシ「ソ」聯邦ハ特ニ規約ト不戰條約トヲ調和セシメ戰爭ヲ完全ニ廢除センカ爲規約改正問題ノ攻究セラレ居ル此ノ際聯盟ニ加入スルヲ欣幸トス規約第十二條及第十三條ニ關シ「ソ」聯邦ハ是等諸條ノ規定スル手續ハ加入前ニ發生セル問題ニ關スル紛爭ニ適用無カルヘキモノト思考スルコトヲ明ニセント欲ス」ト述ヘ本宣言カ全國聯盟國ニ依リ承認セラレンコトヲ希望スト結ヘリ

一四三　ソ聯邦アルバニヤ國間國交再開（イズヴエスチヤ九―一八）

九月十七日羅馬ニ於テ「ソ」聯邦及「アルバニヤ」國兩代表ノ間ニ兩國ノ外交領事關係設定ニ關スル公文交換行ハレタリ

（註）兩國間ノ關係ハ一九二四年七月六日設定セラレタルモ同年十二月十八日以來斷絕シ居リタルモノナリ

〔參考〕「ソ」聯邦及列國間承認關係

A 獨逸
B 墺洪
C 勃牙利
D 土耳其

一九一八、三、三、「ブレスト・リトフスク」平和條約但シ露國以外ノ締約國ハ「ヴェルサイユ」其他ノ條約ニ依リ本條約ノ無效ニ同意セリ又勞農政府ハ獨逸ニ革命起ルヤ一九一八年十一月十三日之ヲ廢棄セリ

「ソ」聯邦承認國名	承認年月日	事由
1 「エストニア」	一九二〇、二、二	「ドルパド」平和條約
2 「リスアニア」	一九二〇、七、一二	「モスクワ」平和條約
3 「ラトヴィア」	一九二〇、八、一一	「リガ」平和條約
4 芬蘭	一九二〇、一〇、一四	「ドルパド」平和條約
5 「イラン」（波斯）	一九二一、二、二六	「モスクワ」修好條約
6 阿富汗	一九二一、二、二八	同
7 土耳其	一九二一、三、一六	同
8 波蘭	一九二一、三、一八	「リガ」平和條約
9 蒙古	一九二一、一一、五	「モスクワ」修好取極
10 獨逸	一九二二、四、一六	「ラパロ」條約（一九二一、五、六 通商ニ關スル伯林暫行協定ニ依リ事實上ノ承認ヲ與ヘ居リタルモノナリ）
11 英國	一九二四、二、一 及八	交換公文（一九二一、三、一六 倫敦通商協定ニ依リ事實上ノ承認ヲ與ヘ居リタリ 一九二七、五、二七 斷交通告 一九二九、一〇、三 倫敦議定書ニ依リ復交）
12 伊太利	一九二四、二、七	交換公文（一九二一、一二、二六 通商ニ關スル羅馬暫行協定ニ依リ事實上ノ承認ヲ與ヘ居リタルモノナリ）
13 諾威	一九二四、二、一五 及一六	交換公文（一九二一、九、二 通商ニ關スル「クリスチヤニヤ」暫行協定ニ依リ事實上ノ承認ヲ與ヘ居リタルモノナリ）
14 奧太利	一九二四、二、二五 及二六	承認通告公文（一九二一、一二、七 修好ニ關スル維納暫行協定ニ依リ事實上ノ承認ヲ與ヘ居リタルモノナリ）
15 希臘	一九二四、三、八	交換公文
16 瑞典	一九二四、三、一五	同
17 「ヘヂアズ」	一九二四、三、三〇	正式國交開始セラレタルモ一九二六、二、一五「ヘヂアス」新政權ト更ニ外交關係ヲ設定セリ

	「ソ」聯邦承認國名	承認年月日	理由
18	支那	一九二四、五、三一	一般關係設定ニ關スル北京條約（一九二九、八、一六「ソ」聯邦ハ對支斷交ヲ決定ス一九三二、一二、一二壽府ニ於テ「リトヴィノフ」顔惠慶間ニ復交ニ關スル公文交換サル）
19	丁抹	一九二四、六、一八	交換公文（一九二三、四、二三　通商暫定協定ニ依リ事實上ノ承認ヲ與ヘタリ）
20	「アルバニア」	一九二四、七、一六	交換公文（但一九二四、一二、一八「ソ」聯邦政府代表者ノ退去ヲ要求ス一九三四、九、一七　國交再開）
21	唐努烏梁海	一九二五、七、二二	條好條約
22	墨西哥	一九二四、八、四	覺書（一九三〇、一、二六「メキシコ」代理公使ヨリ「リトヴィーノフ」ニ同國公使館引揚ノ通報アリ一九三四、七、（日附不明）在波蘭墨國公使ハ「ソ」大使ニ墨國政府カ國交開始ヲ希望スル旨通告セリ）
23	佛國	一九二四、一〇、二八	承認通告文
24	日本	一九二五、一、二〇	北京條約
25	「アイスランド」	一九二六、六、二二	交換公文
26	「ウルグアイ」	一九二六、八、二一	承認通告電文
27	「イエメン」	一九二八、一一、一	修好條約右條約ハ一九二九、一、二三　聯邦中央執行委員會ノ批准ヲ得タリ
28	西班牙	一九三三、七、二八	承認通告電報
29	米國	一九三三、一一、一六	交換公文
30	洪牙利	一九三四、二、四	交換公文
31	羅馬尼	一九三四、六、九	交換公文
32	致惠古	一九三四、六、九	交換公文（一九二二、六、五　通商暫定協定ニ依リ事實上ノ承認ヲ與ヘタリ）
33	勃牙利	一九三四、七、二三	承認通告電報

（註）一九三五年ニ至リ新ニ左ノ三國「ソ」聯邦ヲ承認セリ

34	「コロムビヤ」	一九三五、六、二五	交換公文
35	白耳義	一九三五、七、一二	交換公文
36	「ルクセンブルグ」	一九三五、八、二六	交換公文

尙滿洲國ハ一九三二年三月一日獨立ヲ宣言シタル處「ソ」聯邦領事ハ其ノ儘滿洲國ニ殘留シ又其ノ後滿洲ヨリモ「ソ」聯邦ニ領事ヲ派遣シ居レリ

一四四　第七回コムインテルン大會召集延期（プラウダ九―二六）

第七回「コムインテルン」大會ハ曩ニ一九三四年下半期ニ於テ召集セラルル旨發表セラレタルカ今同「コムインテルン」執行委員會幹部會ハ同大會召集期ヲ一九三五年上半期ニ變更スル旨決定セリ（參照八、八四）

（註）一九三五年八月ニ至リ開催セラレタリ

一四五　ソヴィエト飛行機ノ滿洲里不時着

九月二十六日午前二時頃滿洲里驛附近ニ一「ソヴィエト」飛行機著陸シタル處滿洲國官憲ノ取調ノ結果同機ハ「ザバイカル」鐵道「ダウリヤ」驛附近ノ夜間飛行練習中方向ヲ失ヒ國境線ヲ越ヘタルモノナルコト判明シタルヲ以テ滿洲國官憲ハ十月四日搭乘者飛行機ヲ「ソ」側ニ返還セリ本件ニ關シ「ソ」側ハ滿洲國官憲ノ取扱振ニ感謝ノ意ヲ表スルト共ニ外務人民委員部ノ名ヲ

以テ遺憾ノ意ヲ表セリ

一四六　米ソ債務問題成行

「トロヤノフスキー」大使著任以來ノ懸案タル米「ソ」間債務問題ハ未タ解決ヲ見サルモノノ如シ最近ノ情報ニ依レハ九月四日米國政府ノ發議ニ依リ國務長官代理「ムーア」及「ト」大使間ニ談合再開セラレタルカ「ト」大使ハ華府輸出入銀行ヨリ一億弗ノ長期信用設定ノ外ニ米國政府ヨリモ一億弗ノ信用設定ヲ要求シタルニ對シ米側ハ之ヲ拒否シタル爲交渉停頓シタリト傳ヘラレ其ノ後國務長官ハ事態カ幾分好轉ノ傾向ニ在ル旨ヲ聲明シ一般ニ前途ヲ期待セラレ居タル處九月二十七日「ト」大使ハ突然國務長官ヲ往訪ノ上十月三日歸國ノ途ニ就ク旨ヲ告ケ米國官邊ヲ驚シタリ右ハ前記合計二億弗ノ信用供與方ニ關スル提案カ米國側ヨリ拒否セレテ以來行詰リ居ル債務交渉ニ關シ本國政府ニ米國ノ立場ヲ親シク說明シ本件交渉ニ關スル最終的訓令ヲ仰キ歸來ノ上再ヒ國務省ト交渉ヲ始メントノ意圖ニ出テタルモノト觀察セラレ居レリ「ト」大使ノ歸來ハ十一月初ナル趣ナリ

十月

國內事項

一四七　中亞ニ於ケル黨及經濟機關ノ廢止（イズヴエスチヤ一〇―三）

「ソ」聯邦人民委員會議及共產黨中央委員會ハ「ウズベキスタン」、「トルクメニスタン」、「タジキスタン」ニ於ケル中亞經濟機關（例ヘハ中亞經濟會議、單一聯邦人民委員部ノ派遣代表ノ如シ）及共產黨中央委員會ノ中亞「ビュロー」ヲ廢止セリ

一四八　莫斯科、スウエルドロフスク間定期航空船路開設計畫（モスコー・デーリー・ニュース一〇―三）

近ク莫斯科、「スウエルドロフスク」間ニ「ソヴィエト」聯邦最初ノ航空船ノ旅客及郵便物ノ定期輸送開始セラルヘク右ニ使用スル航空船ハ半硬式一萬八千五百立方米ノ容積ヲ有シ二百五十馬力ノ發動機三個ヲ備ヘ旅客十八名及郵便物相當量ヲ積載シ得ルモノニシテ十一月七日ノ十月革命紀念日迄ニ竣成ノ見込ナリト云フ尙同航空船ハ莫斯科、「スウエルドロフスク」間ヲ無着陸ニテ十六時間ニ飛行スル筈ニテ既ニ航路ノ研究モ濟ミ途中ノ數ケ所ニ不時着陸場ヲ建設スルコトトナリ居リ「スウエルドロフスク」ニハ現ニ三十五米ノ繫留塔建造中ナル趣ナリ

一四九　一九三四―五年ソヴィエト改選（イズヴエスチヤ一〇―五）

「ソ」聯邦第七回「ソヴィエト」大會ハ一九三五年一月十五日ヨリ開カルヘキ處九月二十七日聯邦中央執行委員會ハ右「ソヴィエト」大會ニ先行スヘキ各「ソヴィエト」ノ改選期間ヲ決定シ村「ソヴィエト」ハ來ル十一月一日ヨリ二十日迄、市「ソヴィエト」ハ十一月二十日ヨリ十二月十日迄、地方及州ノ「ソヴィエト」大會竝ニ自治共和國「ソヴィエト」大會ハ十二月十五日ヨリ二十五日迄、聯邦構成諸共和國「ソヴィエト」大會ハ十二月三十日ヨリ來年一月十日迄ニ改選ヲ施行スルコトトシ中央執行委員會內ニ「エヌキッゼ」ヲ議長トシ十二名ノ委員ヨリ成ル中央選擧委員會ヲ設置スルト共ニ第七回聯邦「ソヴィエト」大會ヲ構成スヘキ「ソヴィエト」代表者ノ數ハ「ソ」聯邦憲法ノ定ムル所ニ依リ露西亞共和國一、三七五人、「ウクライナ」共和國三七五人、白露共和國五七人、後高架索共和國八九人、「ウズベック」共和國六一人、「トルクメン」共和國一五人、「タジク」共和國一四人ナル處地理上地方ノ「ソヴィエト」大會ニ參加シ得サル軍

隊ハ一師團ニ付一人ノ割合（中央亞細亞軍管區及特別極東軍所屬ノ或ル部隊ハ特殊ノ事態ニ在ルニ依リ各部隊毎ニ一人ノ割合）ヲ以テ聯邦「ソヴィエト」大會ニ代表者ヲ派遣スルコトトナレリ

尙聯邦中央執行委員會ハ九月二十七日前記諸決定ヲ爲スト同時ニ「ソヴィエト」選擧ニ關スル從來ノ訓令ヲ改正スル所アリ之ニ基キ全露中央執行委員會ハ十月一日附ヲ以テ「ソヴィエト」及「ソヴィエト」大會選擧ニ關スル訓令ヲ公布シタルカ右ニ據レハ選擧カ有效ニ成立スルカ爲ニハ有權者總數ノ五十「パーセント」カ投票ニ加ハルコト（從來ノ定足數ハ四十「パーセント」）ヲ要スルコトトナリタル外（イ）「クラーク」トシテ居住地ヨリ逐ハレタル者ト雖モ其ノ後誠意ヲ以テ勞働ヲ勵ミタル者ハ五年ノ後復權ヲ命セラルヘク右ノ期間ハ金又ハ白金ノ採掘ニ從事シタル者ニ付テハ三年ニ短縮セラレ又突擊隊員トナリ且公共事務ニ精勵シタルトキハ期限前ニ復權セシメラルヘク（ロ）戸主カ選擧權ヲ恢復シタルトキハ其ノ效力ハ家族ノ全員ニ及ヒ（ハ）追放處分ヲ受ケタル「クラーク」ノ子ニシテ忠實ニ勞務ヲ勵ム者ハ徒刑地ニ在ルト否トヲ問ハス選擧權ヲ恢復スルコトトナリタルカ過去ニ於テ反「ソヴィエト」行爲アリタル者ト雖勞働ニ精勵シ「ソヴィエト」當局ニ依リ改悛ノ跡アリト認メラレタル者カ相當寛大ナル取扱ヲ受クルニ至レリ

一五〇　莫斯科市ノ人口（プラウダ一〇ー八）

莫斯科市ノ人口ハ一九一三年一、六六五、八〇〇人ヲ算シタリシカ世界大戰及國內戰爭中漸減シテ一九二二年ニハ一、二七八、四〇〇人トナレルカ其ノ後徐々ニ復活シ一九二五年ニハ戰前ノ人口ヲ凌駕スルコト約十萬トナリ最近數年間ニ異常ナル躍進振ヲ示シ一九三四年一月一日現在ニ於テハ三、六一三、六〇〇人ヲ數フルニ至レリ

右ニ關シ「ソ」聯邦ニ於テハ五年計畫施行以來物資ノ供給ハ大都市及工業中心地ニ厚ク地方農村ニ薄キ弊アリシヲ以テ農村人口ノ都市ニ移入スルモノ夥シキ數ニ上リ其ノ結果莫斯科其ノ他ノ大都市ニ於ケル住宅難ハ一層深刻ノ度ヲ加ヘ物資ノ配給計畫破壞ノ虞アルニ至レルヲ以テ一九三二年末當局ハ國內旅劵制度ヲ定メ莫斯科以下八都市ニ卽時之ヲ施行シ市民ノ身許調ヲ容易ナラシメ外來分子ノ移住ヲ徹底的ニ防壓スルト共ニ農村ニ於ケル勞働力ノ移動ヲ阻止セント試ミタリ其ノ後地方ノ物資供給ハ漸次改善セラレツツアリト雖モ尙都會偏重ノ傾向去ラス地方民ノ都會ニ潛入スル者依然トシテ絕エサル狀態ニシテ莫斯科市ノ如キ特ニ其ノ傾向顯著ナリト傳ヘラレ居ル次第モアリ旁現在ニ於ケル莫斯科市ノ人口實數ハ前揭ノ三、六一三、六〇〇人ヨリモ

寧ロ多數ニ上リ居ルモノト推測セラル

一五一　クズネツク反革命事件（プラウダ一〇―一六）

元私營石鹼企業家ニシテ最近迄「クズネツキー」冶金「コムビナート」ノ熔鑛爐技師タリシ「ラトキン」ナル者同志ノ勤務員數名ト共ニ反革命團ヲ組織シ「ファッショ」的綱領及團規ヲ定メ反革命的「ビラ」ノ作成ニ從事シ居タルコト判明シ一味ハ一九三四年官憲ニ捕縛セラレタルカ今般「ソ」聯邦最高法院軍事參與會議ハ同會巡囘裁判所ノ審理ニ基キ首謀者「ラトキン」並ニ一九二四年以降外國間諜機關ノ手先ト成リ同機關ヨリ報酬ヲ受ケツツ團員トシテ積極的ニ活動シ居タル「サーロフ」及「サーロフ」ノ爲數個ノ工場ニ關スル情報ヲ蒐集シ居タル「ダヴィドフ」ノ三名ヲ銃殺ニ、他ノ團員二名ヲ十年ノ禁錮ニ處スルコトニ決定セリ

一五二　國家商業監督局設置（イズヴエスチヤ一〇―二〇）

黨中央委員會ノ決定ニ依リ八月中各商店及食堂等ヲ檢査セル結果商業企業內ニハ詐欺漢及投機者跳梁シ商品ノ不正秤量及値段違反ノ事實多數發覺シタルヲ以テ是等詐欺漢及投機者ヲ一掃シ

商品購買者及國家ノ利益ヲ保障スル爲ニハ商業監督機關ヲ常設シ商業關係法律及決定實施ノ監督事務ヲ擔當セシムル必要ヲ生シ十月十九日「ソヴィエト」人民委員會議ハ國內商業人民委員部商業監督局ヲ新設スルコトヲ決定セリ

尙右ニ關聯シ從來ノ國家値段監督局ハ廢止セラレタリ

「ソヴィエト」聯邦內國商業人民委員部附屬國家商業監督ニ關スル「ソヴィエト」聯邦人民委員會議決定

「ソヴィエト」聯邦人民委員會議ハ左ノ通決定ス

第一條　「ソヴィエト」聯邦內國商業人民委員部中央機關ノ組織ニ關スル一九三四年九月十一日附同聯邦人民委員會議決定（一九三四年度「ソヴィエト」聯邦法令集第四八號第三七五條）ニ從ヒ商業ニ關スル法律及決定ノ施行ヲ監督スル爲「ソヴィエト」聯邦內國商業人民委員部ニ國家商業監督局ヲ置ク、同監督局ハ聯邦內共和國及自治共和國內國商業人民委員部竝ニ地方、州、市及區內國商業部ニ自己ノ機關ヲ設ク

第二條　國家商業監督局ハ一切ノ國營及「コオペラチーヴ」商業企業竝ニ食堂、小飲食店、料理店及喫茶店等ニ依ル商業關係、法律及決定ノ實際ノ履行振ヲ檢査ス卽チ左ノ如シ

（イ）商業機關ニ依ル所定小賣値段及商業利得ノ嚴重遵守ニ對スル監督

（ロ）消費者ニ對スル商品ノ正味及正尺賣捌ノ檢査

（ハ）商業企業ニ依ル「ソヴィエト」聯邦中央衞生監督局諸命令ノ履行ニ對スル監督

（ニ）小賣商店網ノ事業上ノ缺陷ニ對スル消費者ノ苦情ノ取調

第三條　商業企業ニ依ル商業關係法律及決定違反ノ事實發覺セルトキハ國家商業監督局監督官ハ同監督局長又ハ諸共和國、地方、州及大都市ニ於ケル國家商業監督局指導者（「ソヴィエト」聯邦内國商業人民委員部確認ノ表ニ依ル）ノ確認ヲ經テ左ノ權利ヲ附與セラル

（イ）一件書類ヲ裁判所及檢事局ニ移牒シテ責任者ノ責任ヲ問フコト

（ロ）商業企業管理者（商店支配人及同代理、商店内部長等）ヲ二百五十留以内ノ罰金ニ處スルコト

（ハ）商業機關ニ對シ發覺セル所定商業規則違反ノ排除ニ關シ强制的指令ヲ發シ且違反者ノ紀律的懲戒處分問題（免職、左遷、譴責等）ヲ上級機關ニ提起スルコト

第四條　總テノ商業機關ハ國家商業監督局ニ對シ其ノ要求ニ依リ同監督局ノ擔當任務（第二條）遂行上必要ナル一切ノ書類、報告及説明ヲ提出スヘキ義務ヲ有ス

第五條　「ソヴィエト」聯邦内國商業人民委員部ニ對シ十日ノ期間内ニ國家商業監督局ノ事務ニ關スル訓令ヲ確認スヘキコトヲ命ス

第六條　「ソヴィエト」聯邦財務人民委員部附屬國家値段監督局ニ關スル一九三四年四月二十六日附同聯邦人民委員會議決定（一九三四年度「ソヴィエト」聯邦法令集第二四號第一八七條）及「ソヴィエト」聯邦財務人民委員部國家値段監督局ノ同聯邦内國商業人民委員部ヘノ移管ニ關スル一九三四年九月一日附「ソヴィエト」聯邦人民委員會議決定（一九三四年度「ソヴィエト」聯邦法令集第四五號第三五五條）ハ之ヲ廢止ス

「ソヴィエト」聯邦人民委員會議々長　「ウエ・モーロトフ」

「ソヴィエト」聯邦人民委員會議事務總長　「イ・ミロシニコフ」

一九三四年十月十九日「モスコー」「クレムリ」ニ於テ

一五三　レニングラード反革命事件（プラウダ一〇—二一）

「レニングラード」在住ノ獨逸人民「フウクス」ナル者「ムルマンスク」ノ「ソ」聯邦建設事業ニ技手トシテ勤務シ居リタリシ墺太利人民「コトガッセル」ト共ニ右兩市ニ於ケル軍備、軍事工業及海運ニ關スル情報蒐集ヲ目的トスル間諜團ヲ組織シ一「ソ」聯邦人ヲシテ一九三四年五月以來「レニングラード」ノ地圖ニ符牒ヲ以テ軍隊、國防上ノ主要企業、飛行場、燃料倉庫等ノ所在地ヲ記入セシメ且「ムルマンスク」ニ於ケル前記建設事業ノ勤務員タル「ソ」聯邦人三名ヲシテ「ムルマンスク」港ノ海軍力及商船隊等ニ關スル情報ヲ蒐集セシメ居タルカ更ニ「チェコスロヴァキヤ」人民ヲシテ戰爭ノ際空軍爆擊ノ目的物ト成ルヘキ「レニングラード」ノ發電所、瓦斯工場、飲料水供給所等ノ分布圖ヲ作成セシメントシタルトコロ右「チェコ」人ハ之ヲ拒否シ「ゲペウ」ニ通報シタル爲一味ハ八月中悉ク内務人民委員部機關ニ捕縛セラレ十月七日乃至十三日ノ間「ソ」聯邦最高法院軍事參與會巡回裁判所ニ依リ審理セラレタル結果「フウクス」ハ八年ノ禁錮ニ、「コトガッセル」ハ六年ノ禁錮ニ、「ソ」聯人ハ賣國罪ニ對スル最高刑罰タル銃殺ニ處セラルルコトト成リタリ

一五四 サハリン州第二回ソヴィエト大會

十月二十五日第二回「サハリン」州「ソヴィエト」大會開催セラレタリ

右代表者總數ハ百五十名ニシテ之カ民族的及黨的内譯ハ左ノ如シ

民族的内譯

露西亞人	一〇二人
土民（主トシテ「ギリヤク」及「ツングース」）	一五
其ノ他	三三

黨的關係ヨリ見タル内譯

黨員及同候補員	九六
「コムソモール」及同候補員	一三
「シーンパ」	五
非黨員	三六

次ニ右大會ニ於ケル州當局ノ報告ニ基ク州ノ産業狀態左ノ如シ

一、産業狀況

第一回「ソヴィエト」大會召集當年卽チ一九三二年ト一九三四年トノ間ニ於ケル同州産業ノ四大部門タル石油、石炭、林業、漁業ニ就キ狀況ヲ示セハ左ノ如シ

右四部門ノ總生産額

一九三二年度	三千七百萬留
一九三四年度	七千二百萬留

二、各部門生産量ノ比較ハ左ノ如シ

	一九三二年度	一九三四年度
石油	一八八、〇〇〇噸	二五五、〇〇〇噸
石炭	一三五、〇〇〇噸	二七〇、〇〇〇噸
林業	四八〇、〇〇〇立方米	二二〇、〇〇〇立方米
漁業	一七二、三〇〇「ツエントネル」	二六七、〇〇〇「ツエントネル」

同期間ニ於ケル之等四部門ニ對スル投資額ハ四千萬留ニ達シ其ノ割合ハ左ノ通リ

石油	五七%

石炭	一七％
漁業	一五％
林業	一〇％

右ノ如ク島内產業ハ着々發展シツヽアル處尙計畫ノ上ヨリ見レハ本年度計畫ヲ完全ニ遂行セルハ右四部門中僅ニ漁業ノミニシテ成績必スシモ良好ナラス其ノ主要原因トシテハ指導上ノ缺陷、工業機械化ノ不充分、及勞働者ノ移動激甚等擧ケラレ、中勞働者ノ移動（大陸ヘノ歸還）激化ハ當局ノ頭痛ノ種ナリ

二、農業及土民問題

一九三二年度ト本年度トノ播種面積及牛豚類頭數ヲ比較スレハ左ノ如シ

播種面積	
一九三二年度	四、六二六「ヘクター」
一九三四年度	五、三四三「ヘクター」

	牛	豚
一九三二年度	三、六〇〇頭	三、六〇〇頭
一九三四年度	四、八八六頭	一四、〇八六頭

（二）次ニ農村ノ「コルホーズ」化モ着々實現セラレ現在州內全農民ノ八四％ハ「コルホーズ」組織ニ入リ「コルホーズ」及「ソフホーズ」ノ播種面積ハ島內全播種面積ノ約九〇％ヲ占ムルニ至レリ土民ハ島內ノ全數ヲ擧クルモ二千百五十人餘ニ過キス其ノ多數ハ東海岸ニ於テ漁業ヲ營ム「ギリヤク」及「ツングース」（農及牧畜）ニシテ政治、經濟上ノ地位ハ未タ幼稚ノ域ヲ脫セサルモ民族政策ノ上ヨリ當局ハ之カ啓發問題ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ居レリ

大會ハ二十九日閉會ニ際シ十六人ノ州執行委員會幹部會員及同候補、州執行委員會議長及同代理並ニ州「ソヴィエト」各部長ヲ選出セルカ其ノ主ナル者左ノ如シ

州執行委員會議長	「ミンスキフ」
同代理	「リオバ」
幹部會員	「ウリヤンスキー」（州黨書記長）
	「ミンスキフ」
	「ドレーコフ」（國境守備隊長）
	「リユビーモフ」（外務代表）

對外事項

一五五　スターリン、ウエルス會談（ボリシエヴイク誌第一七號）

英國著述家「エチ・ジ・ウエルス」ハ七月二十二日來莫同二十三日「スターリン」ト會談シタルカ彼ハ社會ノ漸進的改造ヲ認ムルニ反シ「スターリン」ハ社會ヲ根本的ニ改造スルニハ革命ニ依ルノ外ナシト主張シタリ右會談ニ於テ「スターリン」カ「ウエルス」ノ質問ニ對シ答ヘタル要點左ノ如シ

（一）米國及「ソ」聯邦ノ目的トスル所ニハ自ラ差異アリ米國ハ現在經濟組織ニ與フル破壞及損失ヲ最少限度ニ局限セムト努メ居ルノミニテ現在社會機構ノ改造乃至破壞ヲ目的トセス米人ハ之ヲ以テ主觀的ニハ社會改造ヲ目標トスト考ヘ得ヘキモ客觀的ニハ然ラス又計畫經濟ニ付テ言ヘハ其ノ目的ハ失業ノ絶滅ニ在ルモ産業豫備軍ノ撲滅ハ安價ナル勞力ヲ得ムトスル資本家ノ利益ト兩立セサルカ故ニ資本主義國ニ於テハ計畫經濟ハ實現不能ナリ

（二）理論的ニハ資本主義社會ヨリ歩一歩所謂「アングロサクソン」流ノ社會主義社會ヘ近付キ得ヘキモ其ノ社會主義ナルモノハ最モ無節制ナル資本主義ヲ幾分牽制シ國民經濟ニ於ケル統制主義ヲ幾分强化スルコトヲ意味スルニ過キサルヘシ資本主義國ニ於テハ經濟ハ資本家ノ掌中ニ在リ爲政者ハ何等實權ヲ有セサルヲ以テ資本主義ノ基礎ニ何等反對ノ方策ヲ執ラムトスル場合ハ必ス失敗スヘシ資本主義國家ナルモノハ國防秩序維持乃至徴税ノ機關ナルコトヲ忘ルヘカラス

（三）資本家ハ畢竟利益ヲ追フモノニシテ資本主義ヲ破壞スルモノハ生産組織者ニモ技術的智識階級ニモ非スシテ勞働階級ナリ而シテ世界ヲ改造スル爲ニハ權力ヲ有スルコト必要ニシテ權力ヲ有スル爲ニハ大階級卽チ勞働者階級ヲ必要トス

（四）舊組織ハ崩壞シ分解シツツアルハ事實ニシテ此ノ滅亡ニ瀕スル組織ヲ擁護シ救濟スヘク凡ユル手段方法ニ依リ新陣痛ヲ起サシメムトシツツアルコトモ亦事實ナリ舊組織カ崩壞シツツアリト見ルハ正當ナルモ右組織カ自發的ニ崩壞スルモノト考フルハ正シカラス一ノ社會秩序ニ替フルニ他ノ社會秩序ヲ以テセムトスルハ複雜且長時ノ革命的過程ヲ經サル可カラス右ハ單ナル不可抗力的過程ニアラスシテ階級鬪爭ヲ伴フ過程ナリ資本主義ハ腐敗セリト雖之ヲ單ニ自ラ地ニ倒ルル迄ニ腐朽セル樹木ニ比スルコト能ハス革命卽チ一ノ社會組織ヲ他ヲ以テ代フルコトハ鬪爭ナリ新世界ノ人々カ政權ヲ掌握セル場合必ス力ニ依リ舊態ニ復セムトスル舊

世界ノ企圖ヲ防禦スル必要アリ新世界ノ人々ハ常ニ新秩序ニ對スル舊世界ヨリノ襲撃ニ反撃ヲ加フル準備ヲ整ヘ見張ヲ爲スノ要アリ

共産主義者ハ何等暴力ヲ理想トスル者ニ非サルモ舊世界カ自ラ舞臺ヲ退クモノトモ思ハレス舊世界カ力ニ依リ擁護セラレ居ルコトヲ知ルカ故ニ勞働者階級ニ對シテハ戒心ノ要アル所以ヲ説キツツアル次第ニシテ革命ノ容易ナラサルハ歴史ノ教フル所ナリ斯クテ舊式ト思ハルル暴力モ實際ニ於テハ勞働階級ノ爲ニ適當ナル手段ナリ

一五六　蒙古國民革命黨大會ニコムインテルン代表派遣（プラウダ一〇―一一）

一九三四年十月頃庫倫ニ於テ第九回蒙古國民革命黨大會開催セラレタルカ「コムインテルン」執行委員會ハ勃牙利共産黨代表「コラロフ」及致惠古共産黨代表「シユメラル」ノ兩名ヲ同大會ニ派遣シ又前外務人民委員代理「ソコーリニコフ」モ同大會開催ヲ機トシ蒙古ニ密派セラレタル節アリ尙蒙古國民革命黨ハ一九一九年露西亞共和國ノ援助ノ下ニ組織セラレ一九二一年二月恰克圖ニ開カレタル第一回大會ニ於テ政綱ヲ定メタルカ一九二四年五月蒙古王ノ死去ト共ニ外蒙ニ於ケル政權ヲ完全ニ覇握シ同年六月國名ヲ蒙古國民共和國ト改メ「コムインテルン」指導ノ下ニ政治機構ヲ一新シ「ソヴィエト」制度ヲ取入レ外蒙ヲ驅ツテ實質上「ソ」聯邦内ノ一共和國ト化セシメ其ノ間八回ノ黨大會ヲ召集シテ内外政策ノ大綱ヲ示シ來レリ

庫倫發「タス」電ニ依レハ今回ノ第九回大會ニ出席シタル議員ハ二百四十名ニ達シ議事左ノ如シ

(一) 中央委員會政治報告　（報告者「ゲンドウン」）
(二) 組織ニ關スル報告　（同「ヤンドク」）
(三) 民族文化ノ問題　（同「ルブサンシラン」）
(四) 蒙古國民革命黨政綱承認
(五) 選擧

黨中央委員兼蒙古陸軍總司令官「デミド」ハ黨中央委員會ヲ代表シ開會ノ辭ヲ述ヘ第八回大會後ノ蒙古國民共和國ノ治績ヲ回顧シ黨ノ活動ニ新機軸ヲ與ヘタル第三回中央委員會臨時總會決定ノ歴史的意義ヲ有スルコトヲ指摘シタル上第九回大會ノ使命ニ言及シ國際政局ニ對シ滿場ノ注意ヲ喚起シ總理大臣「ゲンドウン」ハ蒙古國民共和國ノ內治外交ヲ論シ特ニ戰爭ノ危險ヲ説キテ議員ノ關心ヲ促ス所アリ次テ黨委員長「ヤンドク」ヨリ黨組織ニ關スル報告アリ右終リテ

民族文化ノ發達問題ニ關スル決議ヲ採擇シ全會一致ヲ以テ黨ノ施政方針ヲ是認シ議事ヲ了セリ

中央委員會ハ改選ノ上新ニ五十一名ノ委員ヲ以テ構成セラレ同委員會ハ總會ヲ開キ十一名ヨリ成ル幹部會ヲ互選シタルカ其ノ中ニハ中央委員會書記「エリドイボチル」、「ドウブサンミラブ」及「ドウブサンドルジ」ノ三名アリ大會開會當日數萬ノ民衆ハ會場ニ充テラレタル國民會館前ニ至リ示威行進ヲ行ヒ大會ニ祝意ヲ表シ蒙古陸軍亦閲兵式ヲ催シ其ノ偉力ヲ宣揚スル所アリタリ

一五七　蒙古首相ノ訪ソ（イズヴエスチヤ一〇—二二）

蒙古ノ首相兼外相「ゲンドウン」ハ外務次官「ドウグルジヤブ」、陸軍次官「ダシ・チエリプ」ヲ隨伴シ十月二十一日莫斯科ニ到着セリ尚蒙古駐在「ソ」聯邦全權代表「エス・イ・チユツカエフ」モ同車セリ

一五八　萬國赤十字總會ニ於ケル「ソ」側提議（イズヴエスチヤ一〇—二四）

十月二十二日東京ニ於テ開催セラレタル萬國赤十字總會ニ於テ「ソ」側代表「ラコフスキー」ハ戰爭ノ發生ヲ防止シ且國際紛爭ノ平和的解決ヲ爲シ得ヘキ法律及國際的規定ヲ全世界ニ設ケ以テ幾百萬ノ人命ヲ救濟スルノ必要アルコトニ付各國赤十字團體及國民ニ於テ各自國政府ノ注意ヲ喚起スヘキコトヲ提議セリ右ニ對シ德川議長ハ事重大ナリトシテ本件ヲ委員會ニ附託セリ

（參照一一四）

十一月

國内事項

一五九　陸軍政治大學十五周年紀念（プラウダ一一—一二）

「レーニングラード」ニ在ル「トルマチョフ」陸軍政治大學ハ一九三四年ヲ以テ成立十五年トナリ祝賀式ヲ擧行シ又同大學ニ「レーニン」勳章授與セラレタリ

一六〇　第十七回革命紀念日狀況

十一月七日第十七回革命紀念日ハ例年通軍隊、團體等多數參加シ「ソ」聯邦各地ニ於テ盛大ニ擧行セラレタルカ只例年ト異リタル所ハ對日關係ヲ刺戟スルカ如キ惡口宣傳見當ラサリシコトナリ又「ノヴオシビルスク」、哈府、浦潮ニ於テハ天候不良ノ爲航空隊ノ飛行取止メトナレリ

一六一　黑龍江結氷

黑龍江ハ十月下旬ヨリ流氷期ニ入リ武市黑河間ノ交通ハ十一月初ヨリ全然杜絶シ居タルカ客年ヨリ十日遲レ二十一日結氷セリ

一六二　太平洋誌ノ創刊（プラウダ一一—五）

「ソ」聯邦「コムアカデミー」世界經濟及世界政治研究所太平洋部ハ「ヴアルガ」、「ミフ」、「ラデック」、「エレマン」ノ監輯下ニ「太平洋」ナル「コータリー」雜誌ヲ刊行スルコトトナリ最近其ノ創刊號ヲ出版セリ創刊號ニハ次ノ諸論文アリ

日本帝國主義ト極東戰爭　「ウオイチンスキー」
華府會議ヨリ一九三五—三六年ノ危機マテ　「イワーノフ」
戰爭ニ對スル日本ノ財政的準備　「シユテイン」
日本ニ於ケル反「ソ」宣傳　「レーミン」
世界經濟ノ太平洋方面　「ポポフ」
南洋馬來半島及「フイリッピン」ニ對スル日本ノ膨脹　「ガリペリン」

其ノ外支那人著者ノ「滿洲ニ於ケル軍事占領ト民族革命運動」ナル長大論文、日本共産黨員市

川ノ法廷ニ於テナセル演説速記譯文等アリ尚本誌ノ編輯幹部ハ世界經濟及世界政治誌ノ責任執筆者中ヨリ太平洋問題專問研究家ヲ引拔キタルモノナリ

一六三　國防人民委員部官制（法令集第五八號）

六月陸海軍人民委員部カ國防人民委員部ト改稱セラレタルニ依リ新ニ十一月二十二日附ヲ以テ國防人民委員部官制發表セラレタリ（參照八二）

「ソ」聯邦國防人民委員部官制（要領）

一、「ソ」聯邦國防人民委員部ノ首席ニ「ソ」聯邦國防人民委員ヲ置ク右ハ又勞農赤軍ノ首席ト爲ス

二、國防人民委員部ノ管掌事項ハ次ノ如シ

（イ）勞農赤軍ノ發展、建設及武裝ニ關スル計畫ヲ特別規定ニ基キ調査シ以テ聯邦政府ノ審議ニ附スコト

（ロ）勞農赤軍ノ陸、海、空戰鬪力ノ組織及建設、其等ノ戰鬪上及政治上ノ指導並ニ戰時平時ニ於ケル其等ノ作戰利用

（ハ）武裝及戰鬪技術ノ凡ユル手段ノ發展及完成

（ニ）「ソ」聯邦ノ反防空組織

（ホ）勞農赤軍ノ軍事上ノ地方區劃

（ヘ）兵役ノ義務ニ關スル法律ニ基キ軍隊服役召集及敎育召集、被召集者ノ兵種及軍管區別配置、兵役勤務課程規則ノ設定

（ト）兵役ノ義務ニ關スル法律ニヨリ規定セラレタル場合及順序ニ從ヒテ兵役一般規程ノ不適用及兵役ノ免除

（チ）勞農赤軍現役軍人並ニ未召集者、隊外勤務者、豫後備役兵卒及將校及非軍事高等專門學校學生ノ敎育ニ關スル凡ユル計畫ノ實施

（リ）一切ノ戰鬪手段ニヨル勞農赤軍ノ武裝及凡ユル種類ノ食料品ノ配給

（ヌ）勞農赤軍ノ防禦的及非防禦的建設ノ實現

（ル）勞農赤軍ニ於ケル衛生及獸醫勤務ノ監督

（チ）一九三一年二月二十一日附「ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議決定「期限外勤務ノ勞農赤軍將校及兵卒ニ對スル國家保障ニ關スル件」ニ基キ勞農赤軍現役軍人ニ對シ年金及扶助料ニヨル保障（一九三一年度「ソ」聯邦法令集第十一號一一八及一一九）

（ワ）自動車其ノ他ノ運輸機關及勞農赤軍動員ニ際シ調達セラル可キ馬匹及馬具ノ調査

三、「ソヴィエト」聯邦國防人民委員部ノ公布スルモノハ次ノ如シ

（イ）勞農赤軍規則、規定、指令、訓戒並ニ聯邦現行軍事法規ニ關スル照會及說明書ノ公布

（ロ）兵役勤務者及兵役義務者ノ調査規則竝ニ召集延期及免除願ニ關スル規則

（ハ）「ソ」聯邦ノ兵役義務者凡テニ對スル兵役ノ義務ニ關係アル職權上ノ處置

（ニ）諸官廳、諸企業及人民ニ所屬スル運輸機關及勞農赤軍動員ニ際シ調達セラルヘキ馬匹及馬具ノ調査實施規則

四、「ソヴィエト」聯邦國防人民委員ハ二人ノ委員代理ヲ有ス、人民委員欠缺ノ場合ハ第一委員代理第一委員代理欠缺ノ場合ハ第二委員代理人民委員ノ全權ヲ以テ之ヲ代理スルモノトス

五、「ソヴィエト」聯邦國防人民委員部ノ構成ハ聯邦中央執行委員會及人民委員會議ノ特別決定ヲ以テ之ヲ定ム

六、勞農赤軍及國防人民委員部ニ於ケル命令ハ國防人民委員之ヲ發ス人民委員代理ハ左ノ事項ニ付テノミ命令ヲ發ス

（イ）其ノ權限範圍内ノ事項（ロ）人民委員ノ特別委任ニ基ク他ノ諸事項

七、國防人民委員部ニハ審議機關トシテ軍事審議會ヲ置キ右審議會官制ニ基キテ職務ヲ執行ス

八、勞農赤軍陸海軍兵力ノ統率ニ關シテハ軍管區卽チ軍團及艦隊ニ之ヲ歸屬セシム

各管區ノ軍隊卽チ軍團、艦隊ノ司令官ハ國防人民委員ニ直屬ス

九、市民ノ兵役召集及軍隊動員ニ關スル一切ノ計畫實現ノ爲國防人民委員部ハ軍管區司令部ニ隷屬スル兵事事務機關ヲ各地ニ設置ス

地方兵事事務機關ノ數及其ノ配置ハ國防人民委員ニヨリテ定メラレ聯邦中央執行委員會及人民委員會議ニヨリテ裁可セラル地方兵事事務機關ハ地方執行委員會兵事部ノ事務ヲ遂行シ右兵事部規則ニ基キテ之ヲ行フ

十、聯邦各共和國人民委員會議附トシテ聯邦國防人民委員部代表ヲ置ク

十一、在外「ソ」聯邦全權代表部附トシテ聯邦國防人民委員ニヨリテ任命セラレタル在外武官及其ノ補佐官ヲ置ク

一六四　國防人民委員部附屬軍事委員會設置（イズヴェスチヤ一一—二四）

「ソヴィエト」聯邦中央執行委員會及人民委員會議ハ十一月二十二日附決定ヲ以テ「ソ」聯邦國防人民委員部附屬ノ審議機關トシテ新ニ軍事委員會ヲ設ケタルカ前記決定ニ依レハ該委員會議長ハ國防人民委員之ニ當リ委員ハ國防人民委員ノ推薦ニ依リ且「ソ」聯人民委員會議ノ承認ヲ要ス該委員會ハ國防人民委員部ノ諮問機關タル性質ヲ有シ國防人民委員ニ依リ附議セラルル諸問事項並ニ委員ニ依リ提起セラルル諸問題ヲ審議スルモノニシテ其ノ決定ハ總テ國防人民委員ノ承認ヲ經其ノ命令ニ依リ實施セラルヘク該委員會ノ開催時期及議事規定ハ國防人民委員ニ於テ之ヲ定ムルコトトナリ居レリ

本件軍事委員會設置ニ關スル決定公布ト共ニ「ソ」聯邦人民委員會議ハ議長「ウォロシーロフ」以下八十名ノ委員承認ノ決定ヲ公布シタルカ其ノ顏觸ハ何レモ中央及地方ニ於ケル陸、海、空軍幹部員ニシテ國防ニ關係アリト認メラルル他ノ人民委員部部員ノ參加シ居ラサルハ本件委員會カ純然タル國防委員部ノ機關タル關係ニ基クモノト思料セラル

一六五　パンノ切符制度廢止（イズヴェスチヤ一一—二九、三〇）

本年十一月二十六日聯邦共產黨中央委員會總會ハ從來實行シ來レル「パン」及其ノ他食料品ノ切符制度ヲ廢止スヘキ旨ヲ決議シタリシカ「ソ」政府ハ十二月七日附ヲ以テ「「パン」、麥粉、其ノ他穀類ノ切符制度及工業原料用作物ノ現物引換制度廢止」ニ關スル決定ヲ公布セリ

本件決定ハ一九三五年一月一日ヨリ實施セラレ「パン」及其ノ他穀物ノ賣買ハ一九二八年前ノ常態ニ復シ現在ノ二種ノ「パン」價（配給「パン」ト商價）ハ一種ノ國定價ニ統一セラルル次第

ナルカ「バン」及穀物ノ賣價ハ運輸其ノ他地方的條件ヲ考慮シ全國ヲ八級ニ區別シ地方別ニ之ヲ定メ大體現在ノ配給「バン」ト商價「バン」ノ中間價格ヲ採リ黒「バン」ハ地方ニ依リ一瓩最低八十哥（一級地方）ヨリ最高一留五十哥（八級地方）トセリ

而シテ右「バン」切符制度ノ廢止及穀物賣價ノ統一ニ關聯シ賃金、恩給、學生ノ給費ヲ引上クルコトトナスト共ニ農民ノ收入增加ヲ計ル爲メ政府ノ穀物買付價格ハ一九三五年一月ヨリ一〇%、組合機關ノ買付價格ハ同年九月ヨリ二〇%夫々之ヲ引上ケ且其ノ他農産原料品買付價格モ引上ケ從來ノ穀物引換ノ制度ハ廢止セラルルコトトセリ

一六六　第七回ソヴィエト大會開催延期（イズヴェスチヤ一一―三〇）

第七回「ソヴィエト」大會ハ一九三五年一月十五日莫斯科ニ召集セラルル筈ナリシ所一月二十五日ニ延期セラレタリ（參照八九）

對外事項

一六七　ソ聯邦エストニヤ間通商取極調印（イズヴェスチヤ一一―一）

「ソ」、「エ」兩國ノ通商關係ハ近年不振ノ一途ヲ辿リ客年度ヲ以テ其ノ極ニ達シタルカ本年ニ入リ政治的關係ノ良好ナルニ基キ漸次通商關係改善ノ兆アリ過日「エ」國國民經濟大臣「セリテル」氏ヲ團長トスル商工「ミッション」ノ訪「ソ」トナリタル處十月二十六日同「ミッション」ト「ソ」聯邦外國貿易人民委員「ローゼンゴリツ」トノ間ニ於テ協定成立シ「ソ」聯邦側ハ今後三ケ年間一定量ノ「エストニヤ」商品ノ購買ヲ約シ「エストニヤ」側又相當數量ノ「ソヴイエト」ノ商品輸入ヲ約シタリトノコトニシテ本協定ハ一九二九年ノ兩國間通商條約ノ補足ト稱ス可キモノナルヤニ傳ヘラル

一六八　レナ・ゴールドフイールヅ採金利權問題解決（プラウダ一一―五）

「ソ」聯邦ニ於ケル最大ノ外國利權ト稱セラレタル英國「レナ・ゴールドフイールヅ」會社ノ採金利權ハ一九三〇年「ソ」側ニ依リ廢棄セラレタル處最近利權委員會本部代表ト右會社代表間ニ本利權ニ關スル紛爭ハ一切解決シタル旨ノ話合成立セリ

一六九　英ソ間新通商取極成立（プラウダ一一・一六）

一九三四年二月十六日締結セラレタル英「ソ」通商條約第八條ニ依レハ「ソヴィエト」農産品及工業製品カ英本國及屬領ニ於テ最惠國待遇ヲ受クルニ於テハ右英國及其ノ屬領産ナル農作物及工業製品モ「ソ」聯邦ニ於テ同樣ノ待遇ヲ享クルヘキ旨規定シアル處最近英國外務省及「ソヴィエト」大使間ニ公文交換ノ結果「ソヴィエト」輸出品ハ印度、「ニューファンドランド」、其ノ他米、「アフリカ」、亞細亞各地ノ英領ニ於テ最惠國待遇ヲ受クルコトトナリ又右各屬領ノ製品モ「ソ」聯邦ニ於テ同待遇ヲ受クルコトトナリタリ

一七〇　青年共産インターナショナル十五周年紀念（イズヴェスチヤ一一・二二）

「コムインテルン」ノ分派タル青年共産「インターナショナル」（「キム」）ハ一九二九年十一月「コムインテルン」ニ加入シテ以來十五年トナリタルヲ以テ十一月二十日莫斯科ニ於テ紀念大會擧行セラレタリ

十二月

國内事項

一七一　キーロフ暗殺事件（イズヴェスチヤ一二・二）

共産黨中央委員會委員、同政治局、書記局及組織局員ニシテ「レニングラード」州黨委員會書記タル地位ニ在ル外聯邦中央執行委員會幹部會員ヲ兼ネ黨及政府首腦者ノ一人タル「セルグイ・ミロノーウィチ・キーロフ」ハ十二月一日元「レニングラード」勞農檢査部勤務員「ニコラエフ」（三十一歳）ナル者ニ依リ射殺セラレ「ソヴィエト」當局ニ大衝動ヲ與ヘタリ

「ニコラエフ」等十四名ハ十二月二十八、二十九日ノ裁判ニ於テ「テロ」行動ノ廉ヲ以テ銃殺及財産沒收ノ宣告ヲ受ケ刑ノ執行ヲ受ケタルカ其ノ判決理由ニ依レハ被告等ハ舊「ヂノヴィエフ」派ニ屬シ「レニングラード」ニ於テ反革命祕密「テロ」團體ヲ組織シ「テロ」行動ニ依リ現政策ヲ變更セシメントスルモノナルカ外國ノ武力干渉ニモ目標ヲ置クニ至リ「ニコラエフ」ハ在「レニングラード」某國領事ヨリ「テロ」行動資金トシテ五千留ヲ入手セル

趣ナリ（其ノ後「ソ」側ニ於テ發表シタル所ニ依レハ右ハ「ラトヴィヤ」領事ナリトノコトナリ）

而シテ聯邦內務人民委員部ハ右兇變ニ關聯シ同人民委員部「レニングラード」州支部長「メドウエーディエフ」以下八名ノ幹部ヲ治安維持ノ職務ヲ怠リタル廉ヲ以テ罷免ノ上裁判ニ附シ聯邦內務人民委員代理「アグラーノフ」ヲ同人民委員部「レ」州臨時支部長ニ任命シテ治安ノ維持ニ當ラシメ又聯邦中央執行委員會ハ十二月一日附決定ヲ以テ各訴追官憲ニ對シ「テロ」行動ノ豫備及既遂ニ關スル犯罪事件ヲ急速審理スヘキコト又裁判所ニ對シ前記犯罪ノ減刑請願ハ之ヲ受理シ得サルモノト認ムルカ故ニ斯ル請願ノ爲最高刑罰ノ宣告ヲ遲滯セサルヘキコトヲ更ニ又內務人民委員部諸機關ニ對シ前記犯人ニ對シテハ最高刑罰ノ判決アリ次第直ニ刑ノ執行ヲ爲スヘキコトヲ命シ又同執行委員會ハ同日附決定ヲ以テ聯邦內共和國現行刑事訴訟法中「ソ」政權勞務者ニ對スル「テロ」團體及「テロ」行動事件ノ搜查及審理ニ關スル項ヲ（イ）事件ノ審理ハ十日以內ニ終結スヘキコト（ロ）起訴狀ハ裁判所ニ於ケル事件審理ノ一晝夜以前ニ被告ニ交付スヘキコト（ハ）事件ハ傍聽者ヲ交ヘス聽取スヘキコト（ニ）判決ニ對スル上告モ減刑請願モ許ササルヘキコト（ホ）最高刑罰ノ判決ハ宣告後直ニ執行セラルヘキコトニ改正セリ

其ノ結果聯邦內務人民委員部カ曩ニ「テロ」計畫ノ廉ヲ以テ逮捕セル「レニングラード」州ニ於ケル三十九名及「モスコー」州ニ於ケル三十二名計七十一名ノ事件ヲ十二月二日聯邦最高裁判所軍事部ノ審理ニ附シタルカ右事件ハ「レ」、「モ」兩市ニ於テ五日審理ノ結果國事犯中ノ「テロ」行動ニ該當スルモノトシテ「レ」市ニ於テ二名「モ」市ニ於テ三名ヲ除ク計六十六名ニ對シ同日銃殺ノ刑ヲ宣告シ即日刑ヲ執行シ財產ヲ沒收セル趣ナリ又右ニ關スル判決文ニ依レハ是等犯人中「レ」市ノ分ハ大部分ハ「ラトヴィア」ヨリ一小部分ハ芬蘭及波蘭ヨリ又「モ」市ノ分ハ大部分ハ波蘭ヨリ一小部分ハ「ラトヴィア」ヨリ何レモ「テロ」行動ノ目的ヲ以テ「ソ」聯ニ潛入シタルモノナル趣ナリ

「キーロフ」事件ニ關聯シ十六日莫斯科ニ於テモ十五名逮捕セラレタルカ其ノ中「ジノビエフ」、「カーメネフ」、「エフドキモフ」等七名ハ審理ノ結果證據不充分ナリシヲ以テ行政處分ニ依リ流刑ニ處スル爲內務人民委員部持別會議ノ審理ニ附セラレタリ（參照一七四）

一七二　ヴャトカ市改稱（イズヴエスチヤ一二—六）

暗殺サレタル「キーロフ」ヲ紀念スル爲中央執行委員會ハ十二月五日附ヲ以テ彼ノ故鄕タル「ヴャトカ」市ヲ「キーロフ」市ト改稱スルコトニ決定セリ

一七三　西伯利、ゴリコフスキー及中部ヴオルガ地方行政區劃變更（イズヴエスチヤ一二—八）

全露中央執行委員會ハ十二月七日附ヲ以テ左ノ地方ノ行政區劃ノ改正ヲ決定セリ

一、西伯利地方ニ從來ノ東部及西部西伯利地方ノ外ニ左ノ地方及州ヲ新設ス

1　「オムスク」州　　中心地「オムスク」市

2　「クラスノヤルスク」地方　　中心地「クラスノヤルスク」市

二、「ゴリコフスキー」地方ヲ左ノ通二分ス

1　「ゴリコフスキー」地方　　中心地「ゴリキー」市

2　「キーロフスキー」地方　　中心地「キーロフ」市

三、中部「ヴオルガ」地ヲ左ノ通二分ス

1　中部「ヴオルガ」地方　　中心地「サマラ」市

2　「オレンブルグ」州　　中心地「オレンブルグ」市

一七四　レニングラード共產黨書記長新選（プラウダ一二—一六）

「レニングラード」州委員會及市委員會ハ十五日行ハレタル合同總會ニ於テ中央委員會ノ推薦セル「アンドレイ・アレクサンドロウイチ・ジュダーノフ」ヲ滿場一致ヲ以テ曩ニ暗殺セラレタル「キーロフ」ノ後任ニ選擧シ之ヲ同日引續キ行ハレタル「レニングラード」黨員大會ニ報告セリ「ジュダーノフ」ハ年齒未タ四十ニ達セス黨員（一九一五年入黨）トシテノ經歷モ比較的若キ方ナルカ近年頓ニ名聲ヲ博シ「スターリン」ノ信任頗ル厚ク本年初頭ノ第十七回黨大會ニ於テハ遂ニ「スターリン」、「カガノーウイチ」及「キーロフ」ト共ニ黨中央委員會書記長ニ選任セラレタルカ如キ異常ナル躍進振ヲ示シ居レルモノナリ其ノ經歷左ノ如シ

一八九六年誕生、一九一二年ヨリ革命運動ニ參加、一五年入黨大戰中軍隊內ノ宣傳事務ニ從事ス

一九一七年—一九年ノ間「イエカテリンブルグ」縣ニ於テ「ウイエーズド」（郡）委員會委員、同議長代理及議長ニ歷任ス

一九一九年―二二年ノ間「ウラル」及「トウエリ」ニ於テ軍隊、黨及「ソヴィエト」關係ノ事務ニ從事シ二二年「トウエリ」縣執行委員會議長ニ任セラル
一九二四年「ニジエガロッドスキー」縣委員會書記ニ任セラレ其ノ後「ゴリコフスキー」地方委員會書記ト成リ第十七回黨大會ニ至ル
第十四回黨大會（一九二五年）ニ於テ中央委員會會員候補ニ選ハレ第十六回黨大會（一九三〇年）ニ於テ同會員ニ選ハレ次テ第十七回黨大會ニ於テ「ゴリコフスキー」地方委員會書記解任ト共ニ中央委員會書記ニ任セラル又數回全露中央委員會會員ト成リ現ニ「ソ」聯邦中央執行委員會委員タリ（參照一七一）

一七五　特別極東軍少壯指揮官一行來莫（「プラウダ」一二―一八）

一九三四年十二月九日持別極東軍戰闘準備班次長「バランチエフ」引率ノ下ニ同軍少壯指揮官一行二十七名着莫シタルカ何レモ飛行機、戰車ノ操縱、射擊等ノ各專門技術ニ於テ優秀ナル成績ヲ示シタルモノノミナル趣ニテ赤旗勳章所持飛行士「ランジン」同戰車指揮官「カチエグーロフ」、先般軍司令官「ブリユーヘル」ニ依リ全軍ノ模範トシテ表彰サレタル趣ノ「フローロフ」兄弟、一九二九年ノ對支戰闘ニ參加セル「アルフエーエフ」海軍下士官等ヲ含メリ
國人民防委員「ウオロシーロフ」ハ十二月十五日國防人民委員部議室ニ於テ目下滯莫中ノ極東軍司令官「ブリユーヘル」、同軍政部長「アロンシユタム」等列席ノ下ニ一行ヲ引見シタルカ戰車指揮官「カチエグーロフ」ヨリ各種軍隊競技ノ成績ヲ報告スルト共ニ極東軍優秀指揮官ノ署名セル紀念帖ヲ「ウオロシーロフ」ニ贈呈シ更ニ次テ戰車指揮官「カチエグーロフ」同「ヤシコフ」、射擊隊指揮官「ステチユック」、化學隊員「グリヤズノフ」、海軍下士官「アルフエーエフ」、飛行士「ハロシーロフ」、騎兵士官「ミシユーコフ」、砲兵士官「サハニイエンコ」等各專門事項ニ付詳細ナル報告ヲ爲シタル後「ウオロシーロフ」ハ一場ノ訓辭ヲ爲シ各員一層技術ノ習得ニ勉メ特ニ各技術相互ノ完全ナル聯絡ヲ具現スルニ意ヲ致サムコトヲ望ム旨ヲ述ヘ功勞ヲ表彰スル意味ニテ一行各員ニ對シ金時計ヲ贈レリ

一七六　猶太自治州ソヴィエト大會開催（「イズヴエスチヤ」一二―一八）

一九三四年五月改組セラレタル「ビロビジヤン」猶太人自治州ノ第一回「ソヴィエト」大會ハ十二月十八日開催セラレタリ同大會ニ參加ノ爲米國猶太人團體「イコル」代表者「エプシユテイ

シ」、巴里發行猶太新聞「ネイエ、プレス」紙主筆「シュテイン」、「ゲゼルド」協會代表（佛國）「シュテインカルド」其ノ他ノ代表者參會セリ（參照六一）

一七七　モルドフスカヤ自治共和國成立（イズヴェスチヤ一二—二一）

全露中央執行委員會ハ一九三四年十二月二十日附ヲ以テ從來ノ「モルドフスカヤ」自治州ヲ「モルドフスカヤ」自治共和國ニ改組スルコトニ決定セリ

本自治州ハ中部「ヴォルガ」地方(クライ)内ニアリシモノニシテ其ノ行政中心地ハ「サランスク」市ナリ（莫斯科ヨリ東方四五五「キロ」ニ所在ス）

一七八　地方、州、管區執行委員會定員決定（イズヴェスチヤ一二—二三）

全露中執執行委員會幹部會ハ一九三四年十二月二十日附ヲ以テ各種執行委員會ノ定員ヲ左ノ通決定セリ

一、地方(クライ)（州）執行委員會—八〇乃至一二〇名

二、地方ニ編入セラルル州（自治州ヲ除ク）及管區ノ執行委員會—三五乃至六〇名

三、自治州執行委員會—五〇乃至一〇〇名

一七九　コルホーズ債務ノ棒引（イズヴェスチヤ一二—二四）

聯邦人民委員會議及黨中央委員會ハ十二月二十三日附ヲ以テ一九三三年一月一日迄「コルホーズ」ニ對シ貸付ケラレタル農業貸出關係債務ノ棒引方ヲ決定セリ「コルホーズ」ニ於テ農業銀行ニ對シテ負フ農業貸出關係債務中一九三三年一月一日迄貸付ケラレタル金額四億一千五百四十二萬四千留及未拂利子二千二十一萬五千留總計四億三千五百六十三萬九千留ヲ棒引シテ「コルホーズ」ニ對シ財政的援助ヲ爲サムトスルモノナル趣ニテ右金額ヲ共和國、地方及州別ニ振當テ各共和國地方及州當局ニ對シテハ管内ニ於ケル各「コルホーズ」ヨリ棒引セラルヘキ債務額ヲ決定スヘキコト又聯邦財務人民委員部及農業銀行ニ對シテハ一九三五年二月十五日迄ニ各「コルホーズ」ヨリ債務ノ棒引ヲ完了スヘキコト更ニ又聯邦財務人民委員部、農務人民委員部及農業銀行ニ對シテハ共同シテ本決定ノ實施手續ニ關スル訓令ヲ十日ノ期間内ニ確認スヘキコトヲ命シタルモノナリ

一七九　コルホーズニ對スル種子援助（イズヴエスチヤ一二―二七）

聯邦人民委員會議及中央委員會ハ二十六日附ヲ以テ「コルホーズ」ニ對シ種子援助方ヲ決定セリ右ハ(一)國家豫備中ヨリ天災ニ依リ被害アリタル「コルホーズ」ニ對シ種子、糧食及家畜飼料六千九百十九萬七千布度ヲ明年秋現物ヲ以テ返濟スルコトヲ條件トシ貸出量各百布度ニ付運賃諸掛トシテ十布度ヲ徴收スル外無利子ニテ貸出ヲ行フ旨規定シタルモノナリ

一八一　新型留紙幣發行（プラウダ一二―二八）

聯邦財務人民委員部ハ一留竝ニ五留ノ新型國庫券ヲ發行シ從來ノ同額面國庫券ト共ニ一般ニ流通セシムルコトトナレリ右ハ從來ノ同額國庫券ニ比シ小形ニシテ携帶ニ便利紙質モ頗ル良好ナル趣ナリ

一八二　ジノヴイエフ市改稱（イズヴエスチヤ一二―二九）

一九三四年十二月二十七日附聯邦中央執行委員會ノ決定ニ依リ「ジノヴイエフ」市ヲ「キーロフ」市ニ、「ジノヴイエフ」區ヲ「キーロフ」區ト改稱セラレタリ

一八三　ウドムルトスカヤ自治共和國成立（イズヴエスチヤ一二―二九）

全露中央執行委員會幹部會ハ一九三四年十二月二十八日附ヲ以テ從來ノ「ウドムルトスカヤ」自治州ヲ自治共和國ニ改組スルコトニ決定セリ

本自治州ハ「ゴリコフスキー」地方内ニアリシモノニシテ行政中心地ハ「イジエフスク」市ナリ（莫斯科ヨリ東方八四〇「キロ」ニ所在ス）

對外事項

一八四　ソ蒙通商協定調印（イズヴエスチヤ一二、一二）

蒙古國民共和國首相兼外相「ゲンドウン」ハ外務次官「ドウグルジヤブ」陸軍次官「ダシ・チエリツプ」、牧畜及農業大臣「チヨイバルサン」商工大臣「メンデ」司法大臣「デンドイブ」同次官「イダム・スルン」等ヲ帶同シテ去ル十月二十一日來莫「ソ」聯邦政府ノ歡待ヲ受ケ各方面ノ視察ニ努メ居レル處「ゲンドワン」首相ヲ首班トスル蒙古國民共和國側代表及「ソ」聯邦外國貿易人民委員代理「エリアワ」ヲ首班トスル「ソ」聯邦側代表間ニ行ハレタル商議ノ結果十二月

一日兩國間ニ通商協定及通商決濟協定（各協定「テキスト」ハ發表セラレス）署名セラレタリ
尚一行ハ十二月二日離莫歸國ノ途ニ就キタリ

一八五、東歐パクトニ關スルソ佛協定

本件ニ關シ十二月五日壽府ニ於テ「ソ」佛兩外相間ニ左ノ如キ議定書署名セラレタリ
尚同月十一日致惠古ハ本議定書ニ參加スル旨通告セル趣ナリ

佛「ソ」兩國外相ハ兩國政府ノ提議ニ係ル東歐「パクト」ニ關スル商議ノ進捗狀況ニ關シ壽府ニ於テ意見ノ交換ヲ行ヒ前記國際約定締結遂行ノ爲兩國政府ハ共同ノ決意ヲ有スルヲ認メ商議ノ益々活氣アル段階ニ入ラントスルニ際シ互ニ兩國政府ノ名ニ於テ次ノ決議ヲ爲スコトニ付意見ノ一致ヲ見タリ

一、本「パクト」ニ參加ス可ク招請セラレタル政府特ニ主義上ノ贊意ヲ表示セサル國ノ政府トノ交渉ニ於テ兩國政府ハ何レモ東歐「パクト」及同附隨協定ノ準備又ハ締結ニ害アル可キ又其ノ精神ニ反スル二國間又ハ多數國間ノ條約締結ノ爲ノ交渉ヲ爲サルコトヲ約ス

二、右ノ爲兩國政府ノ一方ハ右ノ如キ性質ヲ有シ得ル提議ヲ如何ナル方法ニ依ルカヲ問ハス關係國ノ一ヨリ受ケタル時ハ之ヲ他方ニ直ニ通告ス可シ

右義務ハ現外交々渉又ハ其ノ後同一觀念及同一目的ヲ以テ右ニ代ルコトアル可キ外交々渉ノ繼續スル限リ有效ナリ

兩國政府ハ前記交渉繼續ノ不必要ヲ合意的ニ認メタル場合ニ非サレハ之ヲ放棄セス又右ノ場合ニハ同一精神及同一目的ヲ以テ適當ト認ムル新ナル保障ニ付協議ス可シ兩國政府ハ佛「ソ」外交協調ノ繼續性竝ニ有效性ニ付前記ノ如キ保障ノ存在スルコトハ目下ノ國際的交渉ノ成功ヲ助ケ且一般的ニ兩國政府ノ關係ニ相互ノ信頼ヲ强ムル所以ナリト確信スルモノナリ

一八六、佛商相來ソ及ソ佛通商議定書調印（イズヴェスチヤ一二・一〇）

佛國商相「マルシャンドー」一行ハ駐佛「ソ」聯邦通商代表「ドヴォライツキー」ト共ニ十二月四日莫斯科ニ到着シテ以來外國貿易人民委員部當局ト佛「ソ」通商關係ニ關スル商議ヲ行ヘリ

佛國商相來莫ノ目的ニ關シテハ主トシテ一九三四年十二月末日ヲ以テ滿期ト成ル佛「ソ」暫定

取極ノ更新ニ關スルモノナリト報セラレ殊ニ一九三三年佛ノ對「ソ」輸出額四千萬「フラン」「ソ」聯邦ヨリノ輸入額四億「フラン」、一九三四年（但十一月末迄）佛ノ對「ソ」輸出額二億四千萬「フラン」、「ソ」聯ヨリノ輸入額五億「フラン」ト稱セラレ佛「ソ」貿易關係著シク佛國ニ不利ナルニ鑑ミ漸次輸出入額ノ開キヲ減少セムトスルニ在リト傳ヘラレタルモ僅ニ現行暫定取極更新ノ基礎事項ヲ協定シ且正式通商航海條約締結交渉開始ニ關スル打合セヲ爲シタルニ過キス爾余ハ巴里ニ於テ商議續行ニ決シ佛商相一行九日歸國ノ途ニ就キ十日新聞ニ

「ローセンゴリッツ」、「マルシャンドー」間話合ノ結果十二月九日兩者間ニ「プロトコール」ノ署名ヲ見タルカ右ハ恒久的通商航海條約ノ締結交渉開始ヲ豫見スルト共ニ現行暫定更新ノ基礎事項ヲ記載シ且今後兩國間ノ通商增進ノ希望ヲ相互ニ確認セルモノナリ

トノ趣旨ノ「コムミユニケ」發表セラレタリ

尚十二月二十日ノ新聞ニ「プロトコール」ノ「テキスト」發表セラレタカ右ハ署名ノ日ヨリ效力ヲ發生シ其ノ要旨ハ(一)最短期間内ニ通商居住及航海條約締結ノ交渉ヲ開始スルコト(二)速ニ現行暫定通商協定ニ代ルヘキ同種ノ協定ヲ締結スルコト右協定締結ノ基礎トシテハ佛國市場ニ於テ對「ソ」信用ヲ開キ其ノ金額期間(二年)正當ナル利率ヲ定メ同信用ハ一箇年間ニ佛國工業ニ對スル注文ノ支拂ニ充テ又佛國輸出業者ニ對シ信用保障ヲ供給スルコト(三)一九三五年一月一日迄ニ新協定成立セサルトキハ現行協定ハ來年中有效トナスコト等ヲ定メタルモノナリ（參照一〇）

一八七 英ソ間小包郵便條約批准書交換（イズヴエスチヤ 一二―二九）

一九三四年四月十九日倫敦ニ於テ英「ソ」間ニ調印ヲ了セル小包直接交換ニ關スル條約ノ批准書ハ十二月二十八日外務部ニ於テ「リトヴィノフ」及駐「ソ」英國大使「チヤイルストン」間ニ交換セラレタリ

露西亞問題關係調書

		印刷年月
調第三號	(祕)北極地方「セクター」別分割論	昭和九年七月
調第四號	東方ニ於ケル「ソ」聯邦ノ經濟政策	九年七月
調第六號	「ソ」聯邦ニ於ケル鐵道及航空路ノ現狀	九年八月
調第一五號	「ソ」聯邦政府及共産黨ノ組織及職員一覽表	九年十月
調第二五號	露國政府ノ極東外交機密文書第一卷	十年一月
調第二六號	(祕)中亞事情	十年二月
調第二七號	一九三四年度「ソ」聯邦法令要覽	十年三月
調第三二號	「ソ」聯邦ノ北氷洋經營	十年五月
調第三三號	「ソ」聯邦政府及共産黨ノ組織及職員一覽表(改訂二版)	十年六月
調第三六號	「ソ」聯邦ノ政治及經濟組織	十年七月
調第四七號	「ソ」聯邦重要事項誌(一九三四年度)	十年十一月

14.5
500